

「～ヨウトスル」の許容度に見られる世代差

— 一人称主語と三人称主語の比較 —

國澤里美*

(e-mail : k_satomi30@hotmail.com)

目 次

1. はじめに	5.1.1 主節
2. 先行研究と本稿の立場	5.1.2 従属節
2.1 「視座」と「注視点」	5.1.3 まとめ
2.2 「～ヨウトスル」の人称制限	5.2 三人称主語＋「～ヨウトスル」
2.3 テイル形の持つ「報告性」の機能	5.2.1 主節
3. 仮説	5.2.2 従属節
4. アンケート調査	5.2.3 まとめ
5. 結果と考察	5.3 無情物主語＋「～ヨウトスル」
5.1 一人称主語＋「～ヨウトスル」	6. おわりに

1. はじめに

本稿は「～ヨウトスル」の用法に世代差があることについて論じたものである。「～ヨウトスル」には意志のモダリティ形式「～ヨウ」が含まれている。「～ヨウトスル」を考察する前に、まず「～ヨウ」と「～ヨウトスル」の人称の違いについて確認する。「～ヨウ」は(1)のように聞き手を含意せずに話し手が自分自身の意志を述べる場合に使われる。1) 「～

* 名古屋大学大学院、国際言語文化研究科、博士後期課程

1) 「～ヨウ」に(a)のようなく申し出>の用法や、(b)のようなく提案>の用法もあるが、本稿では(a)や(b)のような用法は考察の対象としない。

(a) コーヒー、お入れしましょう。

(b) じゃあ、みんな、そろそろ意見まとめよう。

ヨウ」は一人称主語で用いられるが、「～ヨウトスル」は(2)のように一人称主語で用いられない。

- (1) よし、決めた。(私は) 今からカラオケに行こう。 <意志>
(2)。* (私は) 今からカラオケに行こうとする。

しかし、筆者が行なった10代から60代までの150名の日本語母語話者を対象としたアンケート調査によると、(3)のように一人称主語であっても「無意識のうちに」という文脈があれば、世代が下がると許容されやすくなる。

- (3) ?? (私は) 無意識のうちにカラオケに行こうとする。

本稿は(3)における許容度の世代差について、世代が下がるほど自分自身を客体化して捉えるためだと考え、「視点」の違いという観点から考察する。また、この「視点」の違いによる世代差にはa) 人称、b) 意志性の有無、c) ル形とテイル形、d) 主節と従属節という4つの要素が関わっていると考える。以下で順に確認する。

a) 人称

まず、「～ヨウ」と「～ヨウトスル」の人称の違いについて述べる。話し手の意志を表す「～ヨウ」は、(4)のように一人称主語の場合は自然であるが、(5)のように三人称主語の場合は不自然である。

- (4) (私は) 今からカラオケに行こう。 <意志>
(5) * (彼は) 今からカラオケに行こう。

「～ヨウ」が一人称主語において使われるのに対して、「～ヨウトスル」は(6)のように一人称主語の場合は不自然であるが、(7)のように三人称主語の場合は(5)と比べると許容されやすくなる。

- (6) * (私は) カラオケに行こうとする。
(7) ? (彼は) カラオケに行こうとする。

b) 意志性の有無

「～ヨウトスル」は動作主の意志性の有無によって許容度に世代差が見られる。(8) (=例6) のように一人称主語で意志性がある場合、全世代において許容度が低い。し

かし、(9)のように動作主の意志性がない場合は、世代が下がると「～ヨウトスル」が許容されやすい。

- (8) * (私は) カラオケに行こうとする。(=例6)
 (9) (私は) 無意識のうちにカラオケに行こうとする。

表1 一人称主語における意志性の有無と「～ヨウトスル」

	全体	10代	20代	30代	40代	50・60代
(8)	18.3%	20.0%	25.0%	16.7%	23.3%	6.7%
(9)	61.7%	73.3%	70.0%	73.3%	48.3%	40.0%

c) ル形とテイル形

また、(6)、(7)のル形を(10)、(11)のようにテイル形にするといずれも許容度が上がる。

- (10) ?? (私は) カラオケに行こうとしている。
 (11) (彼は) カラオケに行こうとしている。

しかし、アンケート調査によると、(10)のように一人称主語の場合、どの世代でも許容されにくい。しかし、(11)のように三人称主語の場合、世代が下がるほど許容度が高くなる。

表2 一人称主語と三人称主語における「～ヨウトシテイル」

	全体	10代	20代	30代	40代	50・60代
(10)	18.3%	20.0%	25.0%	16.7%	23.3%	6.7%
(11)	42.7%	75.0%	46.7%	38.3%	35.0%	16.7%

d) 主節と従属節

「～ヨウトスル」は、(6)、(7)のように主節で用いる場合は一人称主語でも三人称主語でも不自然であるが、(12)のように従属節で用いる場合や(13)のように連体修飾節で用いる場合は自然である。

- (12) {私／彼} はカラオケに行こうとして財布を持った。
 (13) カラオケに行こうとする {私／彼} を先生が呼び止めた。

以上のように、「～ヨウトスル」は、従属節や連体修飾節で用いられる場合は自然であるが、主節で用いられる場合は不自然だと思われる。しかし、主節で三人称主語が用いられる場合、許容されやすい。また、三人称主語においてテイル形を用いると世代が下がるほど許容度が高くなる傾向が見られる。さらに、主節における一人称主語は不自然であるが、動作主の意志性がない場合は世代が下がると許容度が高くなる。本稿はこのような世代差が「視点」の違いにあることを主張する。

2. 先行研究と本稿の立場

2.1 「視座」と「注視点」

本稿は茂呂 (1985) にならって「視点」について「視座」と「注視点」を区別する。「視座」とは対象をながめる位置であり、「注視点」とは見られる対象である。

「視座」 : 「AからBを見る」の〈A〉

「注視点」 : 「AからBを見る」の〈B〉

「AからBを見る」といった場合、「視座」はAにあり、「注視点」はBにある。たとえば私が山を見る場合、私の位置が「視座」であり、観察対象である山が「注視点」である。また、「視点」に関わる「客体化」について次のように定義する。

「客体化」 : 話し手自身を「注視点」に置き、自分自身を第三者のように観察すること

2.2 「～ヨウトスル」の人称制限

「～ヨウトスル」の人称制限について、永井 (1997) は一人称であっても過去の事実を述べる場合には許容されると述べ、竹村 (2004) は過去の事実でなくても許容される場合があることを認めている。永井 (1997) は(14)のように「～ヨウトスル」が一人称の文で使われると不自然であると指摘している。(二重下線は引用者による)

(14) ? 皆にじゃまされても、私は意地でも教室に入ろうとする。

(15) 皆にじゃまされても、彼は意地でも教室に入ろうとする。

ただし、一人称であっても「過去の事実を客観的に描写する場合」は、(16)のように「～ヨウトシタ」を用いると述べている。

(16) 皆にじゃまされても、私は意地でも教室に入ろうとした。

永井(1997)の指摘について「視点」の観点から次のように説明できる。話し手自身について述べる場合でも過去の内容であれば「視座」である「発話時現在の私」から「過去の私」を観察することが可能である。このため、一人称主語であってもタ形を用いた「～ヨウトシタ」は許容される。

一方、竹村(2004)は、一人称主語の(17)は三人称主語の(18)に比べて不自然であるが、一人称であっても「自分を客観視している場合には使えると思われる」と述べている。

(17) ? 私は行こうとしている。

(18) 彼は行こうとしている。

しかし、竹村(2004)では「自分を客観視する」とはどういうことかという説明はなされていない。本稿は2.1で「客体化」について「話し手自身を『注視点』に置き、自分自身を観察する」ことであると定義した。(17)が「自分を客観視する」場合に許容度が上がるということも「視座」と「注視点」を使って次のように説明できる。第三者を観察する場合と同様に、話し手自身についても発話時現在の自分とは別の人物であるかのように切り離して考え、観察対象とする。つまり、発話時現在の話し手の「視座」から観察対象である自分自身を「注視点」にしている。

2.3 テイル形の持つ「報告性」の機能

(19)、(20)のように「～ヨウトスル」よりも「～ヨウトシテイル」のほうが許容されやすい理由も「視座」と「注視点」の観点から説明できる。

(19) (私は) カラオケに { * 行こうとする / ?? 行こうとしている } 。

(20) (彼は) カラオケに { ? 行こうとする / 行こうとしている } 。

まず、テイル形の先行研究について確認する。テイル形の持つ「報告性」の機能について述べた先行研究として金水(1989)、柳沢(1994)などが挙げられる。金水(1989)は「日常的対話で聞き手にある状況を知らせる行為またはその言表」を「報告」と呼び、「小説や物語の地の文」である「語り」と区別した。

金水(1989)は、(21)が非文となるのに対して(22)が適切であると判断される理由として、動詞「悲しむ」が伝える状況を(23)のような相の重なりとして捉えている。

(21) * 山田はひどく悲しむ。

- (22) 山田はひどく悲しんでいる。(下線は引用者による)
- (23) a <悲しい>という心的状態
 b 悲しげな表情や動作
 c 「ああ、悲しい」などの発話行為

金水 (1989) は、他人の心的状態である(23a)を直接知ることはできないため、それを直接表そうとする(21)は非文となるが、(23b)か(23c)が観察されれば(22)のようにテイル形を用いて「報告」してもよいと述べている。これを本稿の立場から説明すると、話し手の「視座」から「注視点」にいる第三者を観察しているためテイル形が使われると言える。

柳沢 (1994) は考察の対象を広げ、金水 (1989) で取り上げられていなかった感情形容詞や感情動詞以外の場合のテイル形についても(24)のように仮定し、これを「テイル形の報告性」と呼んだ。

- (24) テイル形は次の意味を表す。
- a 話し手は何らかの現象を観察している。
 b 言表は観察結果の報告である。
 c 言表は二次元的な情報である。

柳沢 (1994) が指摘するようにテイル形は観察の結果を報告することを含意するため、テイル形の使用には、観察する位置である「視座」と観察される側である「注視点」が含まれる。

3. 仮説

2節では「～ヨウトスル」の人称制限とテイル形の機能についての先行研究を概観し、「視点」の観点から本稿の立場を説明した。ここでは2節の内容を踏まえて本稿の仮説を提示する。(25)、(26)を比べると、「～ヨウトスル／～ヨウトシテイル」が最も許容されやすいのは三人称主語の「～ヨウトシテイル」である。第三者である彼は観察対象としやすく、さらに観察した結果を表すテイル形を用いた「～ヨウトシテイル」は使われやすい。

- (25) (私は) カラオケに { * 行こうとする／?? 行こうとしている }。(=例19)
- (26) (彼は) カラオケに { ? 行こうとする／ 行こうとしている }。(=例20)

一人称主語において「～ヨウトスル」は使いにくいだが、「～ヨウトシテイル」の許容度は

上がる。テイル形を用いると、話し手自身について述べる場合であっても「視座」と「注視点」を区別して位置づけ、対象を観察できる。本稿では以下のような仮説を提示する。

仮説：下の世代ほど一人称主語における「～ヨウトスル」の許容度が上がるのは、客体化できる対象が世代によって異なるためである。下の世代は話し手自身が自分を観察対象である「注視点」にする。

4. アンケート調査

「～ヨウトスル」の許容度の違いを検証するため、日本語母語話者150名を対象にアンケート調査を行なった（資料1参照）。150名の内訳は10代30名、20代30名、30代30名、40代30名、50代と60代30名（50代12名、60代18名）である。²⁾ アンケートは全部で30項目で、一人称主語14項目、三人称主語12項目、無情物主語4項目である。さらに、主節と従属節、スル形とテイル形、意志性の有無によって文脈を変えて調査項目を決定した。例文は全て筆者の作例で、会話場面である。それぞれの場面において「～ヨウトスル／～ヨウトシテイル」が言えるかどうか判断してもらい、言えると思うものには○、言えないと思うものには×、判断に迷うものには△を書いてもらった。また、×の場合、どう表現すれば適切か記述してもらった。その結果を表3に示す。表3は「～ヨウトスル／～ヨウトシテイル」の許容度が高い順に並べたものであり、許容度は○を1、△を0.5、×を0として百分率で計算したものである。

表3 日本語母語話者150名の「～ヨウトスル／～ヨウトシテイル」の許容度

順	調査				許容度	順	調査				許容度
1	無情物	主	テイル	14	86.0%	16	一人称	従	スル	9	54.7%
2	三人称	従	テイル	8	83.7%	17	三人称	主	スル	26	53.7%
2	無情物	主	テイル	28	83.7%	18	三人称	主	テイル	4	53.0%
4	一人称	従	テイル	19	80.3%	19	一人称	主	テイル	3	47.7%
5	三人称	主	テイル	30	75.7%	20	三人称	主	スル	25	42.7%
6	三人称	従	テイル	21	72.3%	21	三人称	主	スル	2	40.0%
7	三人称	従	スル	10	67.7%	22	一人称	従	スル	17	36.3%
8	一人称	従	テイル	20	64.7%	23	一人称	従	スル	18	32.0%

²⁾10代は全員高校生である。

9	一人称	従	テイル	11	62.0%	24	三人称	主	スル	16	27.7%
10	一人称	従	テイル	7	61.7%	25	三人称	従	スル	6	21.7%
10	一人称	主	スル	24	61.7%	26	一人称	主	スル	23	18.3%
12	三人称	従	テイル	12	60.3%	27	無情物	主	スル	27	18.0%
12	一人称	主	テイル	29	60.3%	28	一人称	従	スル	5	17.3%
14	無情物	主	スル	13	55.0%	29	一人称	主	スル	1	11.3%
14	三人称	従	テイル	22	55.0%	30	一人称	主	スル	15	11.0%

(「調査」の数字=アンケート調査の例文番号)

5. 結果と考察

「～ヨウトスル」は(27)のように主節では使われにくい、(28)のように従属節では使われやすい。また、(27)においてテイル形を用いた「～ヨウトシテイル」にすると許容度が上がる。以下で一人称主語、三人称主語、無情物主語の場合についてa) 主節と従属節、b) 意志性の有無、c) ル形とテイル形という3つの観点から考察する。

(27) 私はカラオケに { * 行こうとする / ?? 行こうとしている } 。 (=例19, 25)

(28) 私はカラオケに行こうとして財布を持った。

5.1 一人称主語 + 「～ヨウトスル」

5.1.1 主節

まず、「～ヨウトスル」が一人称主語で用いられる場合を見ていく。「～ヨウトスル」は、(29)のように主節において用いられる場合、全30項目の中で最も許容度が低い。(許容度11.0%)

(29) 場面15 A : その本、いつ読むの？

B : (私は) 先生に言われた時、読もうとする。

表4 一人称主語が主節で用いられる「～ヨウトスル」

	全体	10代	20代	30代	40代	50・60代
(29)	11.0 %	21.7%	3.3%	5.0%	16.7%	3.3%

また、(30)も一人称主語が主節で用いられる場合であり、許容度が低い(18.3%)。しかし、(31)のように「無意識のうちに」という文脈を作ると、許容度が上がる(61.7%)。また、(31)を世代別に見ると、30代以下の許容度が40代以上の許容度より高い。

(30) 場面23 A : すごく疲れた時、どうする？

B : (私は) カラオケに行こうとする。(=例8)

(31) 場面24 A : すごく疲れた時、どうする？

B : (私は) 無意識のうちにカラオケに行こうとする。(=例9)

表5 一人称主語における意志性の有無と「～ヨウトスル」 (=表2)

	全体	10代	20代	30代	40代	50・60代
(30)	18.3%	20.0%	25.0%	16.7%	23.3%	6.7%
(31)	61.7%	73.3%	70.0%	73.3%	48.3%	40.0%

30代以下において(31)が許容されやすいのは、「発話時現在の私」と「無意識の私」を区別して考え、「発話時現在の私」の立場から「無意識の私」について述べているためだと考えられる。「無意識の私」は意志性を持たないため、まるでそれが第三者であるかのように観察し、観察した結果を報告している。つまり、「客体化」しているのである。40代以上では「無意識の私」であっても自分と切り離せない同一の存在であると考えため、客体化しにくいのが、30代以下では話し手自身を客体化できるようになっている。

5.1.2 従属節

次に従属節の場合である。「～ヨウトスル」は連体修飾節などでは許容されやすいが、(32)のようにケド節では許容されにくい(17.3%)。しかし、(32)のル形を(33)のようにテイル形にすると許容度が上がる(61.7%)。

(32) 場面5 A : (私は) パソコンを買おうとするけど、何かいいもの知ってる？

(33) 場面7 A : (私は) パソコンを買おうとして(い)るけど、何かいいもの知ってる？

表6 一人称主語が従属節で用いられる「～ヨウトスル/ヨウトシテイル」

	全体	10代	20代	30代	40代	50・60代
(32)	17.3%	21.7%	8.3%	8.3%	21.7%	23.3%
(33)	61.7%	65.0%	78.3%	70.0%	48.3%	43.3%

(33)のようにテイル形を用いると話し手が自分について聞き手に報告している意味になり、許容されやすくなる。

また、「～ヨウトスル」は(34)、(35)のように主節に近い従属節（いわゆる「言いざし文」）で用いられる場合、許容度が高いとは言えない。（36.3%、32.0%）

- (34) 場面17 A：先生に読むように言われた本、もう読んだ？
 B：忙しくて、まだ全然。（私は）読もうとするけど…。
- (35) 場面18 A：先生に読むように言われた本、もう読んだ？
 B：やる気がなくて、まだ全然。（私は）読もうとするけど…。

表7 一人称主語が主節に近い従属節で用いられる「～ヨウトスル」

	全体	10代	20代	30代	40代	50・60代
(34)	36.3%	36.7%	36.7%	36.7%	38.3%	30.0%
(35)	32.0%	25.0%	38.3%	36.7%	31.7%	26.7%

しかし、(34)、(35)のル形を(36)、(37)のようにテイル形にすると、それぞれ許容度が上がる。（80.3%、64.7%）

- (36) 場面19 A：先生に読むように言われた本、もう読んだ？
 B：忙しくて、まだ全然。（私は）読もうとして(い)るけど…。
- (37) 場面20 A：先生に読むように言われた本、もう読んだ？
 B：やる気がなくて、まだ全然。（私は）読もうとして(い)るけど…。

表8 一人称主語が主節に近い従属節で用いられる「～ヨウトシテイル」

	全体	10代	20代	30代	40代	50・60代
(36)	80.3%	88.3%	95.0%	71.7%	76.7%	66.7%
(37)	64.7%	80.0%	70.0%	71.7%	51.6%	36.7%

(36)、(37)の許容度にはアスペクトと意志性が関わるが、まず、アスペクトの観点から述べる。ル形が発話時現在について述べるのに対して、テイル形はある一定の時間の経過を含意する。話し手が自分自身について述べる場合にテイル形を用いると、自分を客体化し、観察対象にしていることを表す。つまり、客体化のしやすさと、テイル形の使用条件が一致するため、「～ヨウトシテイル」は許容される。ただし、同じテイル形でも意志性の有無によって許容度が異なる。

次に、意志性の観点から述べる。(36)と(37)を比較すると、(36)のように読む意志がある場合は許容されやすい(80.3%)が、(37)のように読む意志がない場合は(36)に比べて許容度が低い(64.7%)。(37)のように読む意志がない場合、30代以下では「発話時現在の私」と区別して自分自身を客体化し、観察した結果を述べるため、「～ヨウトシテイル」が許容されやすい。

5.1.3 まとめ

一人称主語における「～ヨウトスル」を考察した結果、次のことが分かった。

- a) 「～ヨウトスル」は一人称主語では許容されにくい。
- b) ただし、動作主の意志性がない場合、世代が下がると許容度が上がる。
- c) 主節では使われにくいだが、主節に近い従属節(言いざし文)では許容度が上がる。
- d) 「～ヨウトスル」と比べて、テイル形を用いた「～ヨウトシテイル」は許容度が上がる。

5.2 三人称主語 + 「～ヨウトスル」

5.2.1 主節

次に三人称主語について考察する。まず、主節の場合を見ていく。「～ヨウトスル」は(38)のように一人称主語の場合は許容度が低い(11.3%)が、(39)のように三人称主語の場合は許容度が上がる(40.0%)。

(38) 場面1 A: 臨時収入が入ったら、何する?

B: (私は) パソコンを買おうとする。

(39) 場面2 A: 臨時収入が入ったら、Cさんは何するかな?

B: (Cさんは) パソコンを買おうとする。

表9 三人称主語が主節で用いられる「～ヨウトスル」

	全体	10代	20代	30代	40代	50・60代
(38)	11.3%	10.0%	8.3%	6.7%	16.7%	13.3%
(39)	40.0%	58.3%	51.7%	45.0%	25.0%	16.7%

三人称主語の「～ヨウトスル」が主節において用いられる場合は許容度が高いとは言えない。しかし、(40)のようにテイル形を使った「～ヨウトシテイル」は許容度が高い(75.7%)。一人称主語の場合と同様に、三人称主語においてもテイル形を用いると動作主を対象化しやすいためである。

- (40) 場面30 A : Cさん、先生に明日の集合時間、伝えたかな？
 B : (Cさんは) ちょうど今、知らせようとして(いる)。

表10 三人称主語が主節で用いられる「～ヨウトシテイル」

	全体	10代	20代	30代	40代	50・60代
(40)	75.7%	91.7%	83.3%	73.3%	73.3%	43.3%

次に、意志性の有無による許容度の違いについて述べる。一人称主語において動作主に意志性がある場合は世代に関係なく「～ヨウトスル」が許容されにくい。しかし、意志性がない場合は世代が下がるほど許容度が上がる。三人称主語の場合、(41)のように動作主に意志性がある場合も許容される(42.7%)。ただし、(42)のように動作主に意志性がない場合のほうが「～ヨウトスル」の許容度が高い(53.7%)。

- (41) 場面25 A : すごく疲れた時、Cさんはどうするかな？
 B : (Cさんは) カラオケに行こうとする。
 (42) 場面26 A : すごく疲れた時、Cさんはどうするかな？
 B : (Cさんは) 無意識のうちにカラオケに行こうとする。

表11 三人称主語における意志性の有無と「～ヨウトスル」

	全体	10代	20代	30代	40代	50・60代
(41)	42.7%	75.0%	46.7%	38.3%	35.0%	16.7%
(42)	53.7%	73.3%	68.3%	50.0%	38.3%	33.3%

さらに、世代別に許容度の違いを見ると、一人称主語は意志性がない場合、世代が下がるほど許容度が上がるが、三人称主語は意志性の有無に関わらず、世代が下がるほど許容度が上がる。一人称主語において「～ヨウトスル」を用いる場合、話し手は自分自身を客体化する必要がある。しかし、三人称主語の場合、観察対象は第三者であるので客観視できる。このため、動作主の意志性がある場合であっても許容されやすい。ただし、(42)における40代以上の許容度は高いとは言えない。40代以上は、第三者の行為について述べる場合は(41')、(42')のように言うだろう。

- (41') (Cさんは) カラオケに行こうとする {と思う/だろう}。
 (42') (Cさんは) 無意識のうちにカラオケに行こうとする {と思う/だろう}。

アンケートでは許容できない場合は適切だと思う表現を記述してもらった。その結果、40代以上では第三者の行為の述べる場合であっても観察した様子をそのまま述べる「～ヨウトスル」で文を終わらず、その後に話し手の認識であることを表す「～と思う」「だろう」のようなモダリティ形式を使用するという回答が見られた。

5.2.2 従属節

三人称主語の「～ヨウトスル」が従属節で用いられる場合について述べる。(43)のように第三者について述べる場合、「～ヨウトスル」は許容されにくい。(43)のル形を(44)のようにテイル形の「～ヨウトシテイル」にすると全世代において許容されやすくなる。この傾向は一人称主語と共通する。

(43) 場面6 A : (Cさんは) パソコンを買おうとするけど、何かいいもの知ってる？

(44) 場面8 A : (Cさんは) パソコンを買おうとして(い)るけど、何かいいもの知ってる？

表12 三人称主語が従属節で用いられる「～ヨウトスル／～ヨウトシテイル」

	全体	10代	20代	30代	40代	50・60代
(43)	21.7%	28.3%	8.3%	18.3%	25.0%	26.7%
(44)	83.7%	86.7%	86.7%	96.7%	85.0%	56.7%

次に、「～ヨウトスル」が主節に近い従属節（「言いざし文」）で使われる場合について述べる。一人称主語と同様に、三人称主語も(45)のように読む意志がある場合より、(46)のように読む意志がない場合のほうが許容度が下がる。

(45) 場面21 A : 先生に読むように言われた本、Cさんはもう読んだかな？

B : 忙しくて、まだ全然らしいよ。(Cさんは) 読もうとして(い)るけど…。

(46) 場面22 A : 先生に読むように言われた本、Cさんはもう読んだかな？

B : やる気がなくて、まだ全然らしいよ。(Cさんは) 読もうとして(い)るけど…。」

表13 三人称主語における意志性の有無と「～ヨウトシテイル」

	全体	10代	20代	30代	40代	50・60代
(45)	72.3%	76.7%	73.3%	80.0%	65.0%	60.0%
(46)	55.0%	73.3%	51.7%	63.3%	38.3%	40.0%

動作主の意志性については、一人称主語は動作主に意志性がない場合、世代が下がるほど許容度が上がる。しかし、三人称主語は(46)のように最も許容されやすいのは10代であるが、許容度は世代によって様々である。

5.2.3 まとめ

三人称主語における「～ヨウトスル」を考察した結果、次のことが分かった。

- a) 「～ヨウトスル」は一人称主語より三人称主語のほうが許容されやすい。
- b) ただし、主節において動作主の意志性がない場合、世代が下がるほど許容度が上がる。
- c) 一人称主語と同様に主節よりも従属節のほうが許容されやすい。
- d) ル形の「～ヨウトスル」と比べて、テイル形を用いた「～ヨウトシテイル」は許容度が上がる。

5.3 無情物主語 + 「～ヨウトスル」

最後に無情物主語について述べる。今回の調査は一人称主語と三人称主語の比較を中心にしたため、無情物主語については4項目である。しかし、調査の中で最も許容度が高かったのは(49)、(50)のような無情物主語の「～ヨウトシテイル」である。(許容度 86.0%、83.7%)

まず、ル形を使った「～ヨウトスル」について見ていく。(47)、(48)のように「～ヨウトスル」を用いた場合、テイル形の(49)、(50)と比べると全世代において許容度が下がるが、(47)は10代、20代、30代の許容度が40代、50代と60代の許容度に比べて高い。

- (47) 場面13 A : D社はこれから何するだろう。
B : (D社は) ライバル会社の株を買おうとする。
- (48) 場面27 Aが時計を見ながら話している。
A : あ、時計が12時を知らせようとする。

表14 無情物主語が主節で用いられる「～ヨウトスル」

	全体	10代	20代	30代	40代	50・60代
(47)	55.0%	80.0%	58.3%	65.0%	38.3%	23.3%
(48)	18.0%	20.0%	10.0%	20.0%	13.3%	23.3%

(47)、(48)のル形を(49)、(50)のようにテイル形にすると許容度が上がる。(86.0%、83.7%)

- (49) 場面14 A : D社は最近、何しているだろう。
 B : (D社は) ライバル会社の株を買おうとして(いる)。
- (50) 場面28 Aが時計を見ながら話している。
 A : あ、時計が12時を知らせようとして(いる)。

表15 無情物主語が主節で用いられる「～ヨウトシテイル」

	全体	10代	20代	30代	40代	50・60代
(49)	86.0%	88.3%	90.0%	86.7%	80.0%	80.0%
(50)	83.7%	98.3%	90.0%	85.0%	86.7%	53.3%

無情物主語において、話し手が「注視点」に存在する対象を観察することは十分考えられることである。このため、「注視点」になりやすい無情物についてある一定の期間観察したことを表す「～ヨウトシテイル」は許容されやすいだろう。

6. おわりに

「～ヨウトスル」を考察した結果、次のことが分かった。

- 1) 一人称主語が最も許容されにくく、三人称主語、無情物主語の順に許容されやすくなる。しかし、世代が下がると一人称主語においても動作主の意志性がない場合は許容される。
- 2) 従属節のほうが主節よりも使われやすいが、主節に近い従属節である「言いさし文」において許容される。
- 3) 「～ヨウトスル」より「～ヨウトシテイル」という形のほうが許容されやすい。

以上のことから、次のようにまとめられる。「～ヨウトスル」は無情物主語や三人称主語においてテイル形を用いて客体化しやすい場合に許容される。しかし、世代が下がると一人称主語において話し手自身について述べる場合にも許容される。本稿は「～ヨウトスル」の許容度に見られる世代差は、世代によって客体化する対象が異なるためであるという仮説を基に「視点」の観点から考察した。その結果、世代が下がると第三者だけでなく、話し手自身を客体化するようになっていくことが分かった。

【参考文献】

- 池上嘉彦 (2005) 「言語における<主観性>と<主観性>の言語的指標(2)」『認知言語学論考』第4巻, ひつじ書房, pp.1-60
- 金水 敏 (1989) 「『報告』についての覚書」『日本語のモダリティ』(仁田義雄・益岡隆志編) くろしお出版, pp.121-129
- 竹村和子 (2004) 「『~ヨウトスル』と『~ヨウトオモウ』の機能の類似と相違—人称を中心に—」『言語と文明』第2巻, 麗沢大学大学院言語教育研究科, pp.78-90
- 永井鉄郎 (1997) 「『~ようとす』の意味と用法」『日本語教育』92号, 日本語教育学会, pp.189-199
- 茂呂雄二 (1985) 「児童の作文と視点」『日本語学』第4巻第12号, 明治書院, pp.51-60
- 柳沢浩哉 (1994) 「テイル形の非アスペクト的意味—テイル形の報告性—」『森野宗明教授退官記念論集 言語・文学・国語教育』三省堂, pp.165-178

【資料1】

調査時期：2011年1月25日～3月19日

調査項目：30の会話場面

- (1) 場面：AとBが話している。
A 「臨時収入が入ったら、何する？」
B 「(私は) パソコンを買おうとする。」
- (2) 場面：AとBが、Cについて話している。
A 「臨時収入が入ったら、Cさんは何するかな？」
B 「(Cさんは) パソコンを買おうとする。」
- (3) 場面：AとBが話している。BはAの近くで雑誌を見ている。
A 「今、何してるの？」
B 「(私は) パソコンを買おうとして(いる)。」
- (4) 場面：AとBが、Cについて話している。Cは2人から離れた場所で雑誌を見ている。
A 「Cさん、今何してるのかな？」
B 「(Cさんは) パソコンを買おうとして(いる)。」

- (5) 場面：AがBに相談している。
A 「(私は) パソコンを買おうとするけど、何かいいもの知ってる？」
- (6) 場面：AはBに、Cさんについて相談している。
A 「(Cさんは) パソコンを買おうとするけど、何かいいもの知ってる？」
- (7) 場面：AがBに相談している。
A 「(私は) パソコンを買おうとして(い)るけど、何かいいもの知ってる？」
- (8) 場面：AはBに、Cさんについて相談している。
A 「(Cさんは) パソコンを買おうとして(い)るけど、何かいいもの知ってる？」
- (9) 場面：AとBは駅で偶然会った。
A 「どうして、ここにいるの？」
B 「買い物に来たの。(私は) パソコンを買おうとして。」
- (10) 場面：AとBは駅で偶然Cさんを見かけた。
A 「Cさん、どうして、ここにいるのかな？」
B 「買い物に来たらしいよ。(Cさんは) パソコンを買おうとして。」
- (11) 場面：AとBは駅で偶然会った。
A 「どうして、ここにいるの？」
B 「買い物に来たの。(私は) パソコンを買おうとして(い)て。」
- (12) 場面：AとBは駅で偶然Cさんを見かけた。
A 「Cさん、どうして、ここにいるのかな？」
B 「買い物に来たらしいよ。(Cさんは) パソコンを買おうとして(い)て。」
- (13) 場面：AとBが、D社について話している。
A 「D社はこれから何するだろう。」
B 「(D社は) ライバル会社の株を買おうとする。」
- (14) 場面：AとBが、D社について話している。
A 「D社は最近、何しているだろう。」
B 「(D社は) ライバル会社の株を買おうとして(い)る。」
- (15) 場面：AとBが話している。
A 「その本、いつ読むの？」
B 「(私は) 先生に言われた時、読もうとする。」
- (16) 場面：AとBが、Cについて話している。
A 「Cさん、その本、いつ読むのかな？」
B 「(Cさんは) 先生に言われた時、読もうとする。」
- (17) 場面：AとBが話している。
A 「先生に読むように言われた本、もう読んだ？」
B 「忙しくて、まだ全然。(私は) 読もうとするけど…。」
- (18) 場面：AとBが話している。

- A 「先生に読むように言われた本、もう読んだ？」
B 「やる気がなくて、まだ全然。(私は) 読もうとするけど…。」
- (19) 場面：AとBが話している。
A 「先生に読むように言われた本、もう読んだ？」
B 「忙しくて、まだ全然。(私は) 読もうとして(い)るけど…。」
- (20) 場面：AとBが話している。
A 「先生に読むように言われた本、もう読んだ？」
B 「やる気がなくて、まだ全然。(私は) 読もうとして(い)るけど…。」
- (21) 場面：AとBが、Cさんについて話している。
A 「先生に読むように言われた本、Cさんはもう読んだかな？」
B 「忙しくて、まだ全然らしいよ。(Cさんは) 読もうとして(い)るけど…。」
- (22) 場面：AとBが、Cさんについて話している。
A 「先生に読むように言われた本、Cさんはもう読んだかな？」
B 「やる気がなくて、まだ全然らしいよ。(Cさんは) 読もうとして(い)るけど…。」
- (23) 場面：AとBが話している。
A 「すごく疲れた時、どうする？」
B 「(私は) カラオケに行こうとする。」
- (24) 場面：AとBが話している。
A 「すごく疲れた時、どうする？」
B 「(私は) 無意識のうちにカラオケに行こうとする。」
- (25) 場面：AとBが、Cさんについて話している。
A 「すごく疲れた時、Cさんはどうするかな？」
B 「(Cさんは) カラオケに行こうとする。」
- (26) 場面：AとBが、Cさんについて話している。
A 「すごく疲れた時、Cさんはどうするかな？」
B 「(Cさんは) 無意識のうちにカラオケに行こうとする。」
- (27) 場面：Aが時計を見ながら話している。
A 「あ、時計が12時を知らせようとする。」
- (28) 場面：Aが時計を見ながら話している。
A 「あ、時計が12時を知らせようとして(い)る。」
- (29) 場面：AとBが話している。BはAの近くを歩いている。
A 「先生に明日の集合時間、伝えた？」
B 「(私は) ちょうど今、知らせようとして(い)る。」
- (30) 場面：AとBが、Cさんについて話している。Cは2人から離れた場所を歩いている。
A 「Cさん、先生に明日の集合時間、伝えたかな？」
B 「(Cさんは) ちょうど今、知らせようとして(い)る。」

要 旨

本稿は「～ヨウトスル」の用法に世代差があることについて論じたものである。(1)のように「～ヨウトスル」は一人称主語において用いると不自然である。しかし、筆者が行なった10代から60代までの150名の日本語母語話者を対象としたアンケート調査によると、(1)のようにカラオケに行く意志がある場合は不自然であるが、(2)のようにカラオケに行く意志がない場合は許容されやすくなる。さらに、(2)は世代が下がると許容度が上がる。

- (1) * (私は) 今からカラオケに行こうとする。
(2) ?? (私は) 無意識のうちにカラオケに行こうとする。

また、(3)のように一人称主語は不自然であるが、(4)のように三人称主語は許容されやすくなる。さらに、(4)は世代が下がるほど許容度が上がる。

- (3) * (私は) カラオケに行こうとする。
(4) ? (彼は) カラオケに行こうとする。

本稿は(2)、(4)における許容度の世代差について、世代が下がるほど自分自身を客体化して捉えるためだと考え、「視点」の違いの観点から考察した。また、この「視点」の違いによる世代差にはa) 人称、b) 意志性の有無、c) ル形とテイル形、d) 主節と従属節という4つの要素が関わっていると考え、分析した。その結果、世代が下がると第三者だけでなく、話し手自身を客体化するようになっていくことが分かった。

キーワード：「～ヨウトスル」、一人称主語、三人称主語、無情物主語、視座、注視点、世代差、ル形とテイル形、主節と従属節、意志性の有無

투 고 : 2011. 5. 31
1차 심사 : 2011. 6. 11
2차 심사 : 2011. 6. 25